

令和4年7月25日

NPO 法人くまもと漱石文化振興会 御中

夏目漱石先生旧居 活用催事のご提案書

時代がなひろめ隊
主宰 野原 優子
電話 XXX-XXXX-XXXX

下記の通りご提案申し上げます。

記

1. 催事の目的

本県内に現存する貴重な夏目漱石先生(以下、漱石)旧居の有効活用を通じて、世代を越えた地域住民の交流機会を提供。実際に漱石旧居に集い、先生直筆のハガキをともに読み解くことで、生きた歴史にふれ、あたたかい人柄を偲び、もって将来の地域文化振興の新しい一拠点として育成します。

2. 企画・提案の趣旨

日本人なら誰でも名前だけは知っている漱石のデビュー作にして代表作のひとつ『吾輩は猫である』。モデルは漱石自身の飼い猫で、作家として世に出る契機となったこの猫の死に際して、親しい知己宛に漱石が死亡通知のハガキを出したことは文学好きの間では有名で、全集の書簡集などにも多々とりいれられています。

しかしながら、百年あまり前に書かれた実際のハガキの、短いその文面を読める現代人はごくすくないのではないのでしょうか。

のみならず、遑って自分の曾祖父母、祖父母世代の手紙やハガキなども “全く読めない” という人が、過去のわたし自身を含めて大多数だと思います。

本催事では、実際に三四郎のモデルとなった九州出身の木曜会高弟、小宮豊隆博士宛に出されたハガキを解説し、昭和前期(戦前)までの男性の通信文の基礎「候文(そうろうぶん)」

の読みかたをともに学ぶことで、生きた歴史に触れる機会を提供。それと同時に、わたし自身が古文書を学ぶ上で実践してきた昔の字をある程度読めるようになる、ちょっとしたコツ・学習術をお教えしたいと考えています。

3. 対象者

本県に居住する方を中心に、夏目漱石文学に興味がある方。「猫」好きの方。
できれば中学・高校・大学などへの告知を通じて、より若い世代にしっかりアピールしたいと考えています。

4. 開催期日・開催日時

令和4年9月17日(土)

5. 開催場所

夏目漱石旧住居（第六旧居）

6. 催事のレジュメ

別紙にて添付

以上

当日レジュメ

■はじめに

9月13日はあの『日本一有名な名前のない猫』の命日

…夏目漱石『吾輩は猫である』について紹介

…実在のモデル猫についての逸話の紹介(漱石とその周りの人の著作物から)

…猫の死と「死亡通知ハガキ」の紹介

⇒実物披露(事前に参加者には画像を配布)と、実物を見られる福岡県内
「みやこ町歴史民俗博物館」の紹介

■実際に「死亡通知ハガキ」を読んでみよう！

もっとも重要なのは「時代がな=変体仮名」の攻略！

…これだけ覚えれば7割読める「きほんの七文字」(事前に参加者にテキストを配布)

男性の通信文の基礎「候文(そうろうぶん)」とは？

…要するに現代の「書き言葉の“ですます体”」と心得よう

…決まりさえ押さえれば意外と読める！(事前に参加者にテキストを配布)

★実物を見ながら、一字一字解読。参加者にはハガキの高解像度画像と翻刻を
その場で配り、実際に文字をひとつずつ確かめながらていねいに実施。

■なぜひらがなは今の形になったか？

考えたことがありますか？ なぜ「こんにちは」は「こんにちわ」と発音？

…戦後の国語教育の二大改革「当用漢字」と「現代かなづかい」について

■時代がなの世界を、実践してみよう！

時代がなで自分の名前を書いてみよう！(参加者に用紙を配布)

■さらに昔の人の書いたものに触れよう(時間があれば)

与謝蕪村の書画「化け猫退治」(時間がなければ割愛)

以 上